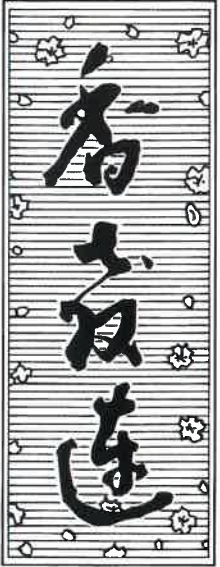


# 令和の日本型学校教育の 確実な構築のために



香川県教職員連盟機関誌  
発行所: 香川県教職員連盟  
発行者: 北村 顕吾

〒760-0004  
高松市西宝町2丁目6番40号  
香川県教育会館602号

TEL (087) 835-2721  
FAX (087) 835-2723

毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十六年を迎え、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

## 内閣へ

十一月九日(月)に全日教連は、首相官邸において第八次中央要請行動(署名簿提出)を行った。香教連からは、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。



## 国会へ



十一月十一日(水)十一月十八日(水)にかけて、全日教連は国会議員の方々への要請行動を行った。香教連からは、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。今回は、全日教連の趣旨に賛同してくださる約一〇〇名の国会議員の方々へ



内閣を代表して加藤勝信官房長官が御対応くださり、全国の会員の皆様や御家族の方々等に御署名いただきました。また、その要望趣旨である教職員定数の改善、人材確保法を尊重した優遇部分の拡大、義務教育に係る費用を全額国庫負担等について、現場の実態と合わせてお伝えした。

加藤勝信官房長官からは、文部科学省概算要求にある少人数学級の実現等について御質問いただき意見交換することができた。また、全日教連の組織の拡大についても激励の言葉をいただいた。お忙しい中、署名への御協力くださった皆様、ありがとうございました。



通して、学校現場の思いに即した要望を関係諸機関や国会議員の方々に伝えてまいりますので、御支援・御協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

## 文部科学大臣へ



十一月二十四日(火)、全日教連は、文部科学大臣である萩生田光一衆議院議員への要望活動を行った。香教連からは、原井和彦副委員長(全日教連事務局次長)が出席した。要望書の手交後に行った意見交換で萩生田文科大臣は、「少人数学級化について、義務標準法の改正を目指して取り組んでいく」と力強く述べられた。また、部活動改革や定年引上げに係る役職定年制の導入について全日教連の意見を求められた。そこで、部活動の地域移行については、首都圏と地方では人的環境に大きな違いがある点を踏まえた制度設計が必要であること、役職定年制については地方の実態に応じた弾力的運用を可能とすること等を要望した。



### 温故知新

今回は「すべての人々への思いやり」です。私がいつも子どもたちに伝えようとしている教訓の一つは「ある人物の外見だけを見てはいけない」ことです。「必ず内面を見て、中身を人々を判断しなくてはならない」ということです。

もう数えきれないほど言ってきた言葉です。

「ある人を好きにならなくてもかまわない。私たちは人間だから、自然なことだ。でもその人のことをよく知るようになるまでは、最初から否定的な考えや意見をもってはいけない。その人を知った後で、やっぱり好きにならなければならないことがないけれど、そのせいで偏った判断を下すようなことがあってはいけない。」

そして、「だれかを好きでなかったとしても、やはりその人に敬意をもって接することは大切だ。」とも付け加えていた。そうした内容を言葉で伝え、子どもたちに理解させていくのは極めて重要ですが、それだけで子どもたちが他人に抱く誤ったイメージや意見を消すことはできない。

自分の教室が居心地のよい場所だと思えず、安心して勉強に励めないために、潜在能力を発揮できずにいる子どもは少なくないでしょう。しかし、適切な環境をつくり出せば、そのような子どもたちも元気になる、それまでできなかつたこともできるようになる、というように。

私が受け持った子どもの中に、とても引込み思案で、自分の思いや意見を口に出せない子どもがいました。その子は、私が受け持つ以前(小学校へ入学する前)からでした。私は何か月もクラスに働きかけ、お互い支え合い、励まし合い、クラスメイト(人)への思いやりを示すよう促すとともに、私自身も実行し続けました。

だれかが「すばらしい」と自分が思ったことをしたら、その時にすばらしいことをした相手にその思いを伝えたり、帰りの会などで紹介して拍手をしたりしてその行動を称えよう。

本人や複数の人がいる前で、その人について否定的なことを言うのをやめよう。

失敗や達成できていないことを責め立てるはやめよう。

だれかが一人で行いたら、話のなかまに入るように声をかけよう。

だれかの不運を話題にしたり、笑ったりするのはやめよう。

お互いに「おはよう」「さようなら」とあいさつをしよう。

照れくさかったり気まずかったりすることがあると思うが、助かったと思うときや自分が悪かったと思うときなどには「ありがとう」「ごめん」を必ず言おう。

など、ほかにも子どもたちから出てくる改善策や私からの提案等を、私も含めて地道に取り組んでいきました。するとクラスの雰囲気も変わり、六年生の二学期の中頃には、引込み思案で自分の思いや意見を口に出せなかった子どもも、授業参観で発表ができた、学習発表会でもしっかりとセリフ言っていたり演技ができた、学習発表会でもしっかりとセリフ言っていたり、自分から将来について話してくれるまでになりました。

ほとんどがこのようにうまくいかないのが現実です。しかし、クラスでうまくいかないことや課題があることを「当たり前」と考え、それらのことについて子どもたちや教師、保護者も含めて「当事者」として最高目標を合意し、それを実現するための手段を、対話を通して決定できるようにする環境づくりに徹していくことが「すべての人々への思いやり」を育むことにつながっていくのではないのでしょうか。(題)

今回の要望では、現在コロナ禍での現場の教職員の勤務状況の現状と、児童生徒のより良い成長を願う熱い思いをお伝えしたところ、どの方からも賛同を得ることができ、大変実り多い要望となった。今後も全日教連を通して、学校現場の思いに即した要望を関係諸機関や国会議員の方々に伝えてまいりますので、御支援・御協力をどうぞよろしくお願ひいたします。